

Y K K A P 「窓学」10周年記念エキシビジョン

「窓学展—窓から見える世界—」／窓学国際会議—窓は文明であり、文化である—

参考資料

「窓学展」作品展示参加者のご紹介



© Alejandro Guyot

レアンドロ・エルリッヒ | Leandro Erlich (アーティスト)

人の知覚を揺るがすような作品を通してエルリッヒは、我々がどのように事象を捉え、空間と関わり、そして、現実を把握していくかについて探求している。知覚や認知といった問題を扱いながらも科学的実験の厳密さではなく、ユーモアとウィットに富んだねじれた空間、だまし絵のような手法によるエルリッヒの作品は、作品を体験する人同士の関係を解きほぐし、人々が共有できる場を生み出す。

金沢21世紀美術館のプールや越後妻有里山現代美術館のトンネルなどの常設作品のほか、鏡などを利用して観る側を巻き込む作品で人気が高い。近年、日本だけでなく台湾・韓国などアジア地域での展覧会が加わってきた。

*9月28日開催 オープニングトークイベントにも登壇



ホンマタカシ | Takashi Homma (写真家)

1962年、東京生まれ。1999年、『東京郊外』で第24回木村伊兵衛写真賞受賞。2011年から2012年にかけて、自身初の美術館での個展「ニュー・ドキュメンタリー」を日本国内三カ所の美術館で開催した。著書に『たのしい写真 よい子のための写真教室』、写真集多数。

2016年イギリスの出版社「MACK」よりカメラオブスキュラシリーズの作品集『THE NARCISSISTIC CITY』を刊行した。

昨年未から現在にかけて「ニュードキュメンタリー映画特集上映」として新作を含む4作品を国内映画館や美術館で巡回上映中。

*10月3日開催 窓学国際会議にも登壇



© Hajime Kato

鎌田友介 | Yusuke Kamata (アーティスト)

1984年、神奈川県生まれ。2013年、東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程修了。美術と建築の領域を横断する作品を制作している。近年の主な展覧会に「«Urban Ritornello» The Archives on Community」(イルミン美術館、2017)、「Love at First Sight」(ソウル国立現代美術館レジデンシーコヤン、2017)「カエテミル」(国際芸術センター青森、2016)、「クリアボヤンス」(東京都美術館、2016)、などがある。2017年6月-8月、トーキョーワンダーサイト二国間交流事業プログラムにより MMCAレジデンシー・コヤン(ソウル)にて滞在制作。10月7日~11月12日MOTサテライトに参加。2018年、ACCフェロウシッププログラムによりニューヨークにて滞在制作予定。



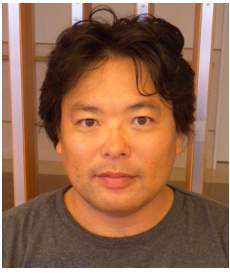
© Giovanni Gastel

ミケーレ・デ・ルッキ | Michele De Lucchi (建築家)

1951年にイタリアのフェッラーラで生まれ、フィレンツェで建築を学ぶ。前衛的で実験的な建築の時代、彼は「カヴァート (Cavart)」、「アルキュミア (Alchymia)」、「メンフィス (Memphis)」といったデザインチームの中心として活躍。イタリアやヨーロッパの企業に向けて家具をデザイン、イタリアのオリベッティ社では1992年から2002年までデザイン・ディレクターを務め、コンパック、フィリップス、シーメンス、そしてヴィトラ社の実験的なプロジェクトを推進した。2003年にはパリのポンピドゥー・センターが彼の作品の大多数を収蔵。厳選された彼の作品は、ヨーロッパ、アメリカ、そして日本の主要なデザイン博物館で展示されている。

*10月3日開催 窓学国際会議にも登壇

「窓学展」研究展示参加者のご紹介



五十嵐太郎 | Taro Igarashi (東北大学教授／建築史・建築批評家)

1967年、パリ生まれ。1990年、東京大学工学部建築学科卒業。1992年、東京大学大学院修士課程修了。博士(工学)。現在、東北大学大学院教授。あいちトリエンナーレ2013芸術監督、第11回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展日本館コミッショナーを務める。第64回芸術選奨文部科学大臣新人賞。『被災地を歩きながら考えたこと』(みすず書房)、『窓へ 社会と文化を映しだすもの』(日刊建設通信新聞社)、『窓と建築の格言学』(フィルムアート社)ほか著書多数。

*10月3日開催 窓学国際会議／9月28日開催 オープニングトークイベントにも登壇



小玉祐一郎 | Yuichiro Kodama (神戸芸術工科大学名誉教授／エステック計画研究所)

1946年、秋田県生まれ。1969年、東京工業大学建築学科卒業。1976年、東京工業大学大学院博士課程修了。1976年、東京工業大学建築学科助手。1978年、建設省建築研究所入所、主任研究員・室長・部長を歴任。1998年、神戸芸術工科大学環境・建築デザイン学科教授。著書に『パッシブ建築設計手法事典』(彰国社)、『エコ・ハウジングの勧め』(丸善)、『環境と共生する建築』(建築資料研究社)、『住まいの中の自然』(丸善)、『都市建築のビジョン』(日本建築学会)ほか。

*10月3日開催 窓学国際会議にも登壇



佐藤浩司 | Koji Sato (国立民族学博物館准教授／建築人類学者)

1989年、東京大学大学院工学系研究科博士課程単位取得退学。工学修士。建築史・民族建築学専攻。1981年以来、フィリピン、台湾、インドネシア、マレーシア、タイ、韓国などで調査・研究に従事。編著に『シリーズ建築人類学《世界の住まいを読む》1～4』(学芸出版社)、『2002年ソウルスタイル 李さん一家の素顔の暮らし』(千里文化財団)、『プリコラージュ・アート・ナウ 日常の冒険者たち』(青幻舎)など。

*10月3日開催 窓学国際会議にも登壇



塚本由晴 | Yoshiharu Tsukamoto (東京工業大学大学院教授／アトリエ・ワン)

1965年、神奈川県生まれ。1987年、東京工業大学工学部建築学科卒業。1987-1988年、パリ建築大学ベルビル校(U.P.8)。1992年、貝島桃代とアトリエ・ワン設立。1994年、東京工業大学大学院博士課程修了、博士(工学)。2000年、同大学大学院准教授、2015年～教授。2003年・2007年・2016年、ハーバード大学大学院客員教員。2007年・2008年、UCLA客員准教授。2011-2012年、デンマーク王立アカデミー客員教授。2011年、バルセロナ工科大学客員教授。2012年、コーネル大学ビジティング・クリティック。2015年、デルフト工科大学客員教授。

*10月3日開催 窓学国際会議にも登壇



中谷礼仁 | Norihiro Nakatani (早稲田大学教授／歴史工学家)

特異な活動で知られる建築史家、歴史工学家、アーキオロジスト。土地形質の継続性と現在への影響の研究(先行形態論)、今和次郎が訪れた民家を再訪し、その変容を記録する活動の主宰をへて、最近では千年続いた村研究-千年村研究-等を行っている。2013年にユーラシアプレートの境界上の居住文明のありようを探索しに、世界各地を巡歴。著書に『動く大地、住まいのかたち プレート境界を旅する』(岩波書店)『セヴェラルネス+ 事物連鎖と都市・建築・人間』(鹿島出版会)など。

*10月3日開催 窓学国際会議にも登壇

「窓学展」研究展示参加者のご紹介



© 鈴木研一

原広司 | Hiroshi Hara (東京大学名誉教授 / 原広司+アトリエ・ファイ建築研究所)

1936年、神奈川県生まれ。1959年、東京大学工学部建築学科卒業。1964年、同大学大学院博士課程修了、工学博士。同年、東洋大学工学部建築学科助教授。1969年、東京大学生産技術研究所助教授、1982年、同教授。1997年、同大学を退官、同大学名誉教授。1970—1998年、設計活動をアトリエ・ファイ建築研究所と協同。1999年、原広司+アトリエ・ファイ建築研究所に改称。2001年、ウルグアイ国立大学 Profesor Ad Honorem。

*9月28日開催 オープニングトークイベントにも登壇

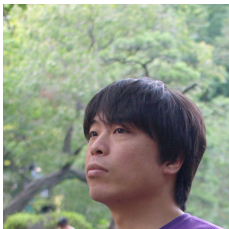


村松伸 | Shin Muramatsu (東京大学教授 / 建築史家)

建築史家。建築史、都市史、保全学を専門とする。1978年、東京大学工学部建築学科卒業。1988年、東京大学生産技術研究所助手を経て、2008年、東京大学生産技術研究所教授。2009-2014年、総合地球環境学研究所教授。現在、東京大学生産技術研究所教授。国際なかなか遺産委員会共同代表。野蛮ギャルド建築学会会長。著書に、『上海』、『中華中毒』。『アジア建築研究』（編著）などがあり、最新刊に『メガシティ』（全6巻、編著）がある。

*10月3日開催 窓学国際会議にも登壇

会場構成担当



西澤徹夫 | Tezzo Nishizawa (建築家)

1974年生まれ。建築家。西澤徹夫建築事務所主宰。作品＝《東京国立近代美術館所蔵品ギャラリーリニューアル》（2012）、「映画をめぐる美術——マルセル・ブロータースから始める」展会場構成（2014）、「Re: play 1972/2015—「映像表現'72」展、再演」会場構成、《西宮の場合》（2016）、「京都市美術館再整備事業基本設計・実施設計監修」（共同設計＝青木淳建築計画事務所）、「八戸市新美術館設計案」（共同設計＝浅子佳英）ほか。

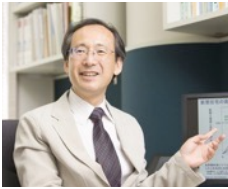
グラフィック担当



岡本健 | Ken Okamoto (グラフィックデザイナー)

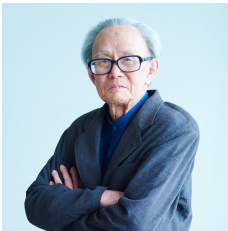
1983年、群馬県生まれ。千葉大学文学部行動科学科にて心理学を専攻、研究の一環で調べたグラフィックデザインに興味を持ち、方向転換。卒業後、数社のデザイン事務所にて実務経験を積み、株式会社ヴォル、株式会社佐藤卓デザイン事務所を経て2013年4月より独立。2015年より株式会社岡本健デザイン事務所を設立。2016年、多摩美術大学統合デザイン科非常勤講師を兼務。

2017年10月3日開催「窓学国際会議」登壇者のご紹介



伊香賀俊治 | Toshiharu Ikaga (慶應義塾大学教授)

1959年、東京都生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒業、同大学院修了。(株)日建設計 環境計画室長、東京大学助教授などを経て、2006年より現職。主な研究課題は、低炭素性・健康性・知的生産性・震災時生活業務継続性のコベネフィットに関する研究。著書に、『CASBEE入門』、『建築と知的生産性』、『熱中症の現状と予防』、『LCCM住宅の設計手法』、『最高の環境建築をつくる方法』など。



© 神藤 剛

内田祥哉 | Yoshichika Uchida (東京大学名誉教授、工学院大学特任教授、日本学士院会員/建築家)

1925年、東京生まれ。東京帝国大学卒業。通信省、日本電信電話公社を経て、東京大学教授、明治大学教授、金沢美術工芸大学特任教授、日本学術会議会員、日本建築学会会長。主な作品に、1956年、中央電気通信学園講堂、1970年、佐賀県立博物館、1980年、佐賀県立九州陶磁文化館、1980-2002年、武蔵学園キャンパス再開発、1993年、大阪ガス実験集合住宅NEXT21。主な受賞に、日本建築学会賞(1970年度作品/1977年度論文/1982年度作品)、1996年、同大賞。主な著書に、「造ったり考えたり」、「建築の生産とシステム」(住まいの図書館)。



© 白浜 哲

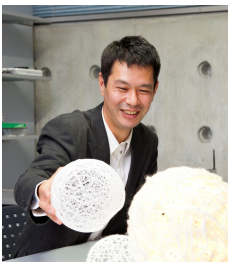
北山恒 | Koh Kitayama (法政大学教授/建築家)

1950年、香川県生まれ、横浜国立大学大学院修士課程修了。1978年ワークショップ設立(共同主宰)を経て、1995年architecture WORKSHOP設立主宰。2001年、横浜国立大学教授。2007年、横浜国立大学大学院Y-GSA教授。2011-2016年、Y-GSA校長。2016年から法政大学教授。2010年第12回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展日本館コミッショナー。主な作品に「洗足の連結住棟」、「祐天寺の連結住棟」など。著書に『都市のエージェントはだれなのか』、『TOKYO METABOLIZING』(共著)(いずれもTOTO出版)、『北山恒の建築空間 in-between』(ADP)、『モダニズムの臨界』(NTT出版)ほか。



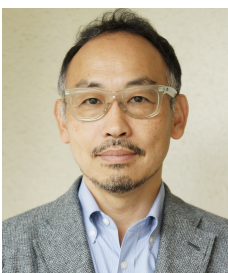
久保田 徹 | Tetsu Kubota (広島大学准教授)

1973年、千葉県生まれ。1995年、芝浦工業大学システム工学部環境システム学科卒業。2001年、芝浦工業大学大学院博士課程修了、博士(工学)。2003-2009年、マレーシア工科大学、ポスドク研究員、日本学術振興会海外特別研究員、上級講師等を歴任。2009年より広島大学大学院准教授。マレーシア、インドネシア、ベトナム等の東南アジア新興国における省エネルギー住宅を研究。



小林茂雄 | Shigeo Kobayashi (東京都市大学教授)

1991年、東京工業大学工学部建築学科卒業。1993年、東京工業大学大学院総合理工学研究科社会開発工学専攻修士課程修了。1993年、東京工業大学大学院総合理工学研究科 助手。1998年、博士(工学)(東京工業大学)。2000年、武蔵工業大学工学部建築学科講師。2003年、武蔵工業大学工学部建築学科准教授。2004-2005年、ネヴァダ州立大学ラスヴェガス校客員研究員。2011年から現在、東京都市大学工学部建築学科教授。2008年、照明学会照明デザイン賞奨励賞。2008年、北米照明学会(IESNA)国際照明デザイン賞(Award of Merit)。2010年、日本建築学会賞(論文)。



小林博人 | Hiroto Kobayashi (慶應義塾大学大学院教授/建築家)

建築家、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授。京都大学、ハーバード大学大学院デザインスクール(GSD)にて、建築設計・都市デザインを学び、日建設計、ノーマン・フォスター事務所にて設計の実務に携わる。2003年から小林・楨デザインワークショップ(KMDW)を主宰。スキッドモア・オーウィングズ・アンド・メリル社(SOM)日本代表。2003-2005年、GSD特別研究員、2011-2012年マサチューセッツ工科大学(MIT)客員准教授、2012-2013年、UC Berkeley日本研究所研究員。日本における伝統的なコミュニティの形態である「町」に関する研究でGSDからデザイン学博士号を取得。現在は国内外の設計活動に加え、2011年の東日本大震災以降合板を用いた簡易セルフビルド建築「ベニアハウス」の開発、および都市更新時のサステイナブルコミュニティ継承の手法を研究中。



清家剛 | Tsuyoshi Seike (東京大学准教授 / 建築家)

1964年、徳島県生まれ。1987年、東京大学工学部建築学科卒業。1989年、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了。1991年、東京大学工学部建築学科助手。1999年より現職。著書に『サステイナブルハウジング』（東洋経済新報社）、『ファサードをつくる』（彰国社）など。日本建築学会の「JASS16建具工事」などの改訂委員や、国土交通省の建築工事監理指針「建具・カーテンウォール分科会」の主査など、窓に関連する委員を多数務めている。現在は改修・解体技術やリサイクル技術、また建築物の環境影響評価等についても研究している。



竹中司 | Tsukasa Takenaka (アンズスタジオ)

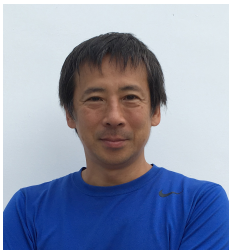
1971年生まれ。武蔵野美術大学 建築学科修士課程修了後、同大学助手、講師を経て、2005-2008年、ブリティッシュコロンビア大学建築学科大学院客員講師。2009年、世界に先駆けてコンピューেশヨナル・デザインのスタジオ「アンズスタジオ」を岡部 文と共同設立。本スタジオでは、コンピュータを自由に且つ繊細に扱いながら、手の仕事を越えた新しい時代の「豊かさ」を創造する活動を続けている。2016年には、ロボットを活用した実践的な施工技術を開発する「株式会社アットロボティクス」を設立。代表取締役を務めている。主な作品に、ソニーシティ大崎ランドスケープ計画、小学館神保町3-3ビル、嬉野社会文化会館ホールなど。



@Wu Chia-Jung

千葉学 | Manabu Chiba (東京大学教授 / 建築家)

1960年、東京都生まれ。1985年、東京大学工学部建築学科卒業。1987年、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修了。1987-1993年、株式会社日本設計。1993-1996年、東京大学工学部建築学科キャンパス計画室助手。1993-2001年、ファクターエヌアソシエイツ共同主宰。1998-2001年、東京大学工学部建築学科安藤研究室助手。2001年、千葉学建築計画事務所設立。2001-2013年、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻准教授。2009-2010年、スイス連邦工科大学客員教授。2013年、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授。2016年、東京大学副学長。



手塚貴晴 | Takaharu Tezuka (東京都市大学教授 / 建築家)

1964年、東京都生まれ。1987年、武蔵工業大学卒業。1990年、ペンシルバニア大学大学院修了。1990-1994年、リチャード・ロジャース・パートナーシップ・ロンドン勤務。1994年、手塚建築企画を手塚由比と共同設立（1997年、手塚建築研究所に改称）。2009年より東京都市大学教授。主な受賞歴として、日本建築学会賞（作品）（ふじようちえん）、日本建築家協会賞（ふじようちえん）、経済産業大臣賞グッドデザイン金賞（副島病院 / あさひ幼稚園）、日本建築家協会優秀建築賞（空の森クリニック）。



浜日出夫 | Hideo Hama (慶應義塾大学教授)

1954年、福島県生まれ。1980年、大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程中途退学。新潟大学・筑波大学を経て、現在慶應義塾大学文学部教授。主な著書、代表作に『社会学』（共著、有斐閣）、『被爆者調査を読むーヒロシマ・ナガサキの継承』（共編著、慶應義塾大学出版会）、『社会学の力』（共編著、有斐閣）。



@Jonas Eriksson

イワン・バーン | Iwan Baan (写真家)

1975年生まれのオランダ人写真家イワン・バーンは、ハーグ王立芸術アカデミー卒。レム・コールハース、ヘルツォーク&ド・ムーロン、ザハ・ハディド、伊東豊雄、SANAAなどの建築家たちが、自らの作品に「場所の感覚」や物語性を与えるべくバーンの力を借りている。2012年のヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展では金獅子賞(企画展示部門)を獲得した。バーンの作品は『ウォール・ストリート・ジャーナル』、『ニューヨーク・タイムズ』、『Domus』などにも掲載されている。



藤森照信 | Terunobu Fujimori (東京大学名誉教授/建築史家/建築家)

1946年、長野県生まれ。東京大学大学院博士課程修了。東京大学生産技術研究所教授、工学院大学教授を経て、現在は、東京大学名誉教授、工学院大学特任教授、江戸東京博物館館長。45才より設計を始め今に至る。近著に『磯崎新と藤森照信の茶席建築談義』（六耀社）、『近代日本の洋風建築 開化篇・栄華篇』（筑摩書房）等、建築史・建築探偵・建築設計活動関係著書多数。近作に「草屋根」「銅屋根」（近江八幡市、たねや総合販売場・本社屋）等、史料館・美術館・住宅・茶室など建築作品多数。



槇文彦 | Fumihiko Maki (槇総合計画事務所代表/建築家)

1928年、東京都生まれ。1952年、東京大学工学部建築学科卒業。アメリカクランブルック美術学院及びハーバード大学大学院修士課程修了。スキッドモア・オーウィングズ・アンド・メリル及びベルト・ジャクソン建築設計事務所に勤務。ワシントン大学とハーバード大学で都市デザインの準教授も務める。1965年帰国、株式会社槇総合計画事務所設立。1989年まで東京大学教授。1993年、プリツカー賞受賞。2011年、AIAアメリカ建築家協会より ゴールドメダル受賞。著書に「記憶の形象」（筑摩書房）、「漂うモダニズム」（左右社）、「Nurturing Dreams」（MIT PRESS）など。



町村 敬志 | Takashi Machimura (一橋大学教授)

1956年、北海道生まれ。1979年に東京大学文学部卒業、1984年に東京大学大学院社会学研究科博士課程中退（2013年東京大学・博士（社会学））。東京大学文学部助手、筑波大学社会科学系講師を経て、1991年、一橋大学社会学部助教授、1999年、同教授（2001年同社会学研究科教授（現在に至る））。グローバル化の下における都市、開発、社会について幅広く研究。著書に、『「世界都市」東京の構造転換——都市リストラクチャリングの社会学』（東京大学出版会）、『越境者たちのロスアンジェルス』（平凡社）、『開発主義の構造と心性——戦後日本がダムでみた夢と現実』（御茶の水書房）ほか。



ヨコミゾマコト | Makoto Yokomizo (東京藝術大学教授/aat+ヨコミゾマコト建築設計事務所)

1962年、神奈川県生まれ。1984年、東京藝術大学美術学部建築科卒業。1986年、同大学美術研究科大学院修士課程修了。1988年、伊東豊雄建築設計事務所入所。2001年、aat+ヨコミゾマコト建築設計事務所開設。2009年、東京藝術大学美術学部建築科准教授。2015年、同大学美術学部建築科教授。2005年、東京建築士会住宅建築賞金賞。2006年、日本建築学会賞作品賞、日本建築家協会賞、International Architecture Award。2007年、日本産業デザイン振興会グッドデザイン賞金賞。2013年、神奈川県建築コンクール住宅部門優秀賞。



ヴィットリオ・マニャーゴ・ランプニャーニ | Vittorio Magnago Lampugnani (スイス連邦工科大学名誉教授/建築家)

ローマとシュトゥットガルトで建築を学ぶ。1980年より、ベルリン、ミラノ、チューリッヒで設計を行なう。1990年から1994年まで、フランクフルトのドイツ建築博物館館長。1991年から1995年まで『Domus』編集長。1994年よりスイス連邦工科大学チューリッヒ校（ETH Zürich）都市デザイン史教授。多くの学術書の出版と重要な展示のキュレーションを行なう。主な建築プロジェクトに、ナポリのメルジェリーナ地下鉄駅、バーゼルのノヴァルティス・キャンパスなど。



六角美瑠 | Miru Rokkaku (東京大学生産技術研究所特任助教/建築家)

東京都生まれ。2001年、筑波大学芸術専門学群 建築デザイン卒業。2003年、東京藝術大学 建築科大学院修了。2003年-2005年、六角鬼丈計画工房（六角工房）所属。2005年～六角工房分室 ミルアトリエ開設。2005年-2010年、東京大学工学研究科博士課程在籍。2006年-2009年、東京藝術大学 建築科 教育研究助手。2014年、東京大学工学研究科建築専攻博士号取得。2015年-2017年、東京大学先端科学技術研究センター 特任助教。2017年～東京大学生産技術研究所 特任助教。



吉田 忠裕 | Tadahiro Yoshida (YKK株式会社 代表取締役会長CEO/YKK AP株式会社 代表取締役会長CEO)

1947年富山県生まれ。慶應義塾大学法学部卒業。1972年、米国ノースウェスタン大学経営大学院（ケロック）修了、YKK株式会社（旧吉田工業株式会社）入社。1990年、YKK AP株式会社 代表取締役社長。1993年、YKK株式会社 代表取締役社長。2011年、YKK株式会社/YKK AP株式会社 代表取締役会長CEO（現任）。